

～2040 年に向けた社会経済の展望～

①人口減少の一層の進行、人生 100 年時代の到来

- ・本県の人口は約 707 万人となり、現在の約 755 万人（2019 年 7 月）より約 50 万人減少（▲6.4%（全国：▲12.1%））する（社人研推計）。
- ・生産年齢人口は約 400 万人（15～64 歳）となり、現在の約 461 万人より約 60 万人減少（▲13.2%（全国：▲20.6%））する（社人研推計）。
- ・サービス業や介護・医療の分野を中心に労働力不足が深刻化する。
- ・団塊ジュニア世代（1971～1974 年生まれ）が 65 歳以上の高齢者になり、本県の高齢化率は 31.6%（全国 35.3%）、**3 人に 1 人が高齢者**（高齢者人口はピーク）になる。
- ・高齢者の中でも 75 歳以上の人口が増加し、その割合は 2030 年頃にピークを迎え、その後徐々に低下していくが、その後も **75 歳以上の人口は増加し続ける**。
- ・医療の高度化（再生医療、ゲノム医療）や健康意識の高まりにより、健康寿命が 3 年以上延伸し（2040 年に男性 76.06 歳以上、女性 79.32 歳以上）、**100 歳を迎える人も珍しくなくなっている**。

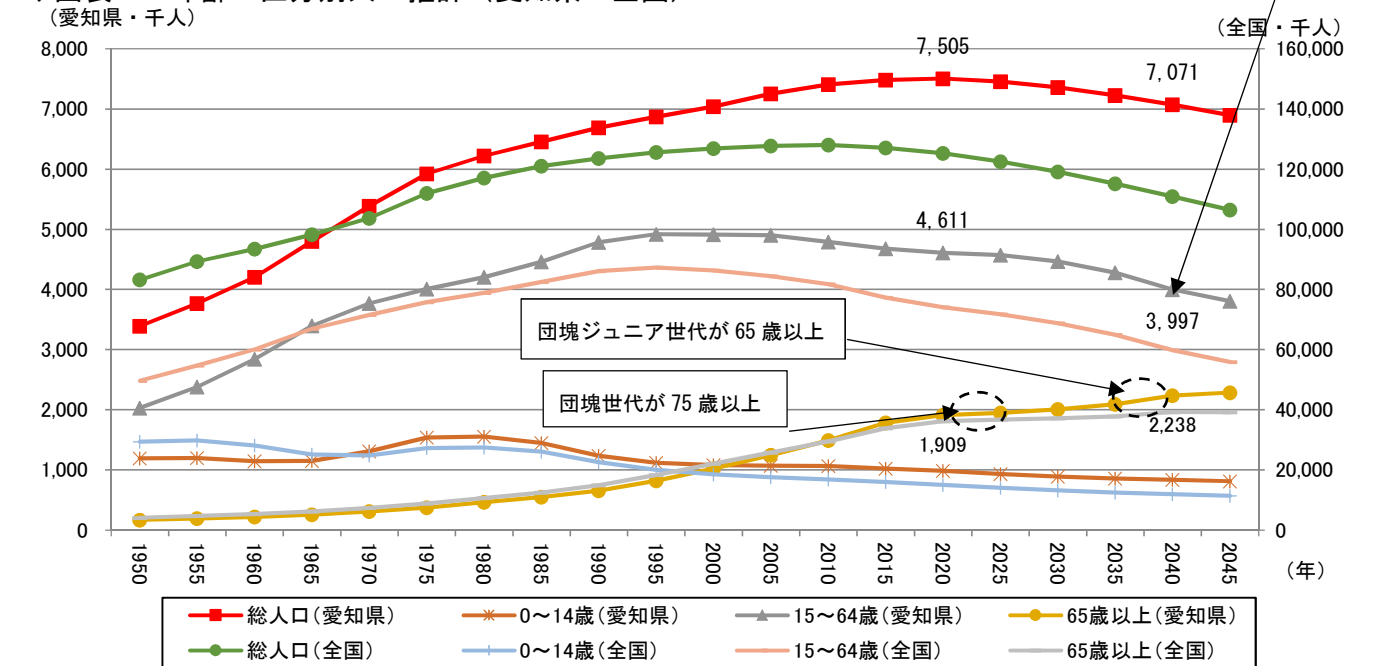
②暮らし・労働・学びの多様化

- ・外国人、LGBT など社会を構成する主体が多様化していく。
- ・ワーク・ライフ・バランスが普及する一方、可処分所得の伸び悩みなどの経済的理由により、**共働き家庭がより一層増加**し、専業主婦家庭は減少していく。
- ・健康寿命の延伸により、社会の担い手として活躍できる**元気な高齢者が増加**している。
- ・ICT などにより、固定された時間と場所で働いたり、学んだりすることから解放され、**好きな時間に好きな場所で働き・学ぶ**ことができるようになる。
- ・社会変化に対応できる最新の知識やスキル獲得のため、**大学等で学び直すリカレント教育が活発化**している。

③共助社会の必要性の拡大

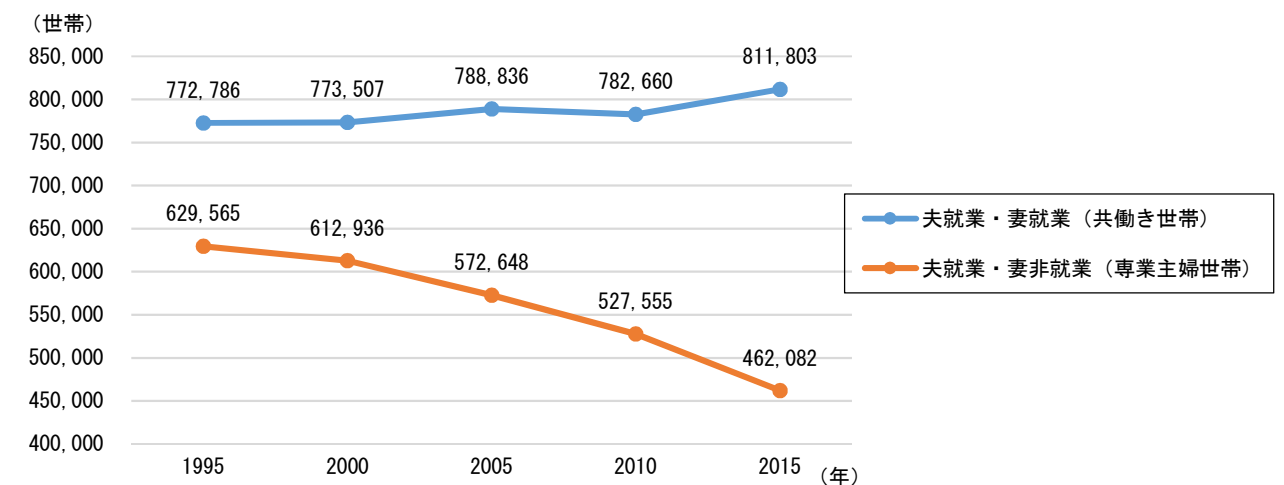
- ・多様な働き方の浸透や AI 技術の進展などに伴う賃金格差の拡大や、同類婚の進行に伴う世帯間格差の拡大など、**社会の階層化のリスク**が高まっている。
- ・就職氷河期世代（1970～1982 年生まれ）で、不本意な非正規雇用にとどまっている人などが高齢化し、生活が不安定化する層が増えている。
- ・**単身世帯が増加**する中（2040 年社人研推計：一般世帯総数の 38.0%（全国：39.3%））、単身世帯の高齢者は 2020 年に 700 万人、2040 年には 900 万人に増加し、社会における「**孤独**」の問題が深刻化している。
- ・共働きの増加、定年延長などにより、**地域コミュニティの担い手が不足**している。
- ・外国人の増加により、**外国人との共生**が求められている。

◆図表 1 年齢 3 区分別人口推計（愛知県・全国）



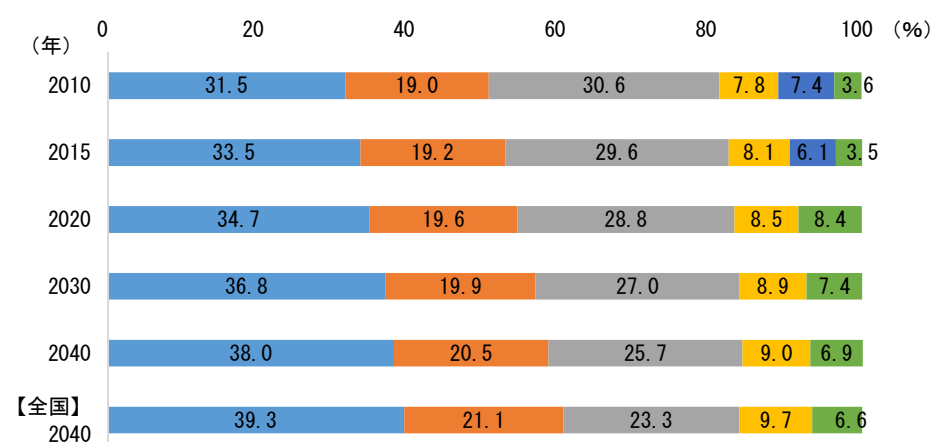
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」（平成 30 年（2018 年）推計）

◆図表 2 共働き世帯と専業主婦世帯の世帯数の推移（愛知県）



出典：総務省「国勢調査」

◆図表 3 一般世帯における世帯構成の推移（愛知県）



※2020 年以降の 3 世代同居の割合については「その他」に含む
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（2019 年推計）」

④世界経済の多極化、経済重心のアジアへのシフト

- ・米国を抜き、**中国が世界最大の経済大国**となっており、インドも日本を大きく上回る経済規模となっている。
- ・インド、バングラデシュなど南アジアや、インドネシア、ベトナム、フィリピンなど東南アジアの国々では人口増加により経済成長率も上昇し、**アジア地域の経済統合**が進んでいく。**アジアでは富裕層が急増**し、巨大な市場を形成している。
- ・訪日外国人が増加し、特にASEANなど**アジアからの観光客が増加**している。
- ・アニメなどコンテンツを契機としたコンテンツツーリズムをはじめ、**多様な動機に基づく観光**が普及している。

⑤世界的な人材獲得競争の激化

- ・AIやゲノム研究などの先端技術の分野で、世界的な**高度人材の獲得競争が激化**している（国内の高度人材も海外流出のリスク）。
- ・欧米諸国、東アジア諸国でも**高齢化が進行**し、生産年齢人口の割合が低下している。
- ・アジアなどの世界の成長地域へ人材が流れ、**外国人労働者が日本を選ばなくなる**ことが懸念されている。

⑥第4次産業革命の加速化

- ・AI、ロボット等の技術が進展し、単純な業務は完全に機械が担うようになり、**技術的失業のリスク**が高まっている（人間にしかできない分野に労働力が移動していく）。
- ・先進国のうち、AI導入などによる**第4次産業革命**を達成した国が飛躍的な発展を遂げている。
- ・自動車をはじめあらゆる分野において、**所有から利用へのシフト**が進み、シェアリングエコノミーが拡大している。
- ・**高速・大容量のデータ通信技術が進展**し、それを活用した新たなサービスが展開されている。
- ・自動運転は、人間と同等以上の技術ですべての道を天候に関わらず運転することが可能になっている（完全自動運転）。
- ・アジア、アフリカ地域の人口増加に伴い、**世界の食料需要は増加**し、農産物の輸入価格が高騰している。

⑦スーパー・メガリージョンの形成

- ・グローバル都市が国家を先導し、経済構造を転換させ、成長を加速させる時代になっており、**海外のメガリージョンとの競争**が激化している。
- ・リニアの全線開通により、3大都市圏を包含する世界最大級規模の**人口7千万人のスーパー・メガリージョン**が形成される。
- ・名古屋駅を起点とした2時間圏人口は、国内最大になる。

◆図表4 世界の国別GDPランキング（購買力平価ベース）

(単位：10億米ドル)

	1位	2位	3位	4位	5位	
2010年	米国 14,964	中国 12,357	インド 5,370	日本 4,949	ドイツ 3,949	
2030年	中国 38,008	米国 23,475	インド 19,511	日本 5,606	インドネシア 5,424	8位
2050年	中国 58,499	インド 44,128	米国 34,102	インドネシア 10,502	ブラジル 7,540	日本 6,779

出典：2010年はIMF調査、2030年以降は、PWC調査レポート「2050年の世界」

◆図表5 AI人材の需給ギャップ（日本国内）

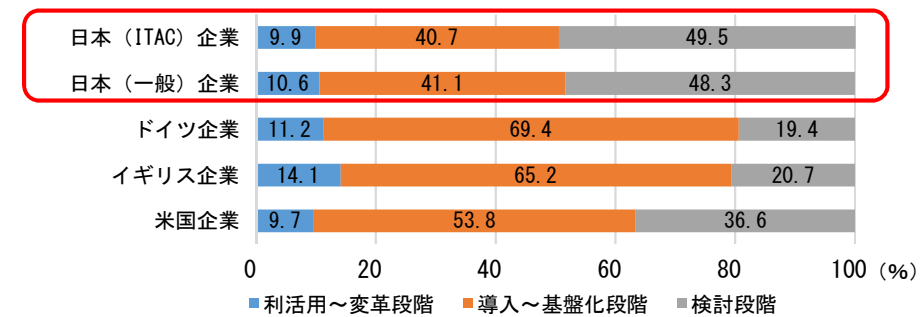
AI需要の伸び	2018年	2020年	2025年	2030年
16.1%（平均）	3.4万人	4.4万人	8.8万人	12.4万人
10.3%（低位）		2.8万人	2.7万人	1.2万人

※「平均」は複数の市場調査結果の平均値、「低位」は低位の伸びの市場調査結果。

AI人材の生産性が年0.7%上昇すると仮定。

出典：経済産業省「IT人材需給に関する調査」（2019年4月）

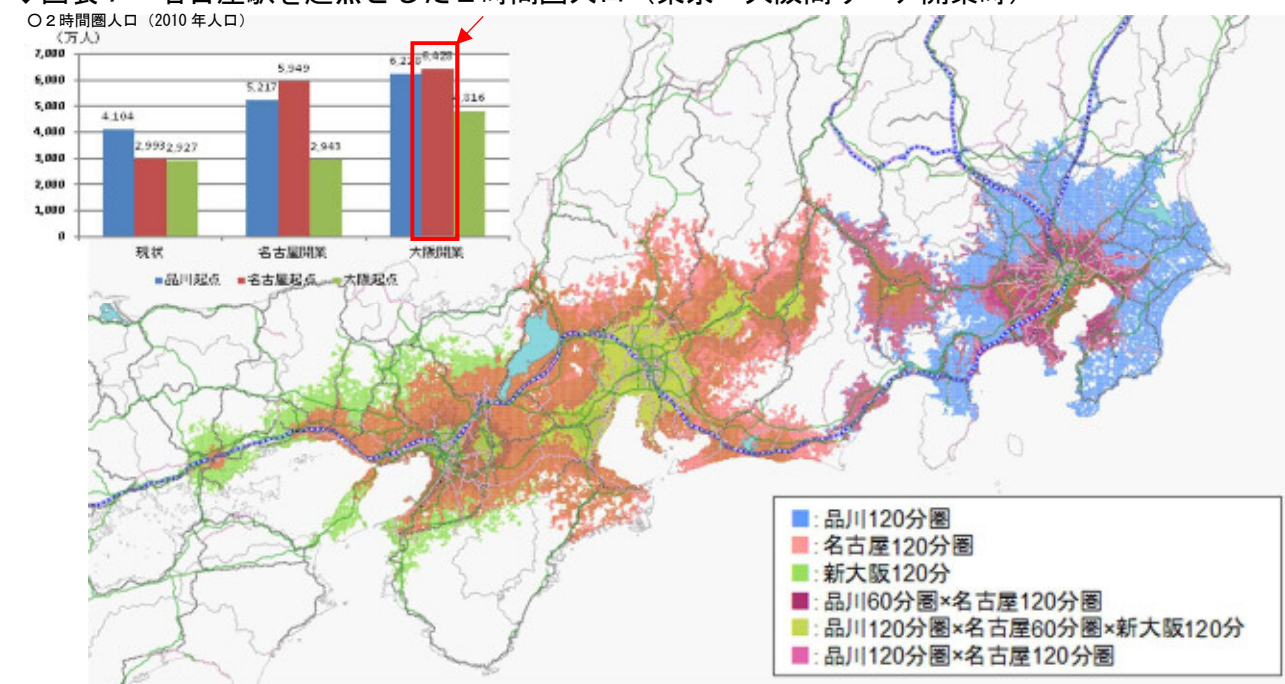
◆図表6 第4次産業革命への対応段階



※ITAC企業：IoT推進コンソーシアム会員企業

出典：総務省「第4次産業革命における産業構造分析とIoT・AI等の進展に係る現状及び課題に関する調査研究」（2017年3月）

◆図表7 名古屋駅を起点とした2時間圏人口（東京－大阪間リニア開業時）



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)作成

⑧都市のスポンジ化、社会インフラの老朽化

- ・大都市中心部では都市の再構築が進む一方で、空き家が増加し、更新投資が困難な老朽化した建物が存置されるなど、都市環境が悪化する地域も増えている。
- ・人口減少に伴いフルセットの行政サービスが困難となる自治体が現れ、広域連携の検討が必要となっている。
- ・高度経済成長期に整備された社会インフラが老朽化するため、より効率的な維持管理や施設総量の適正化が求められている。

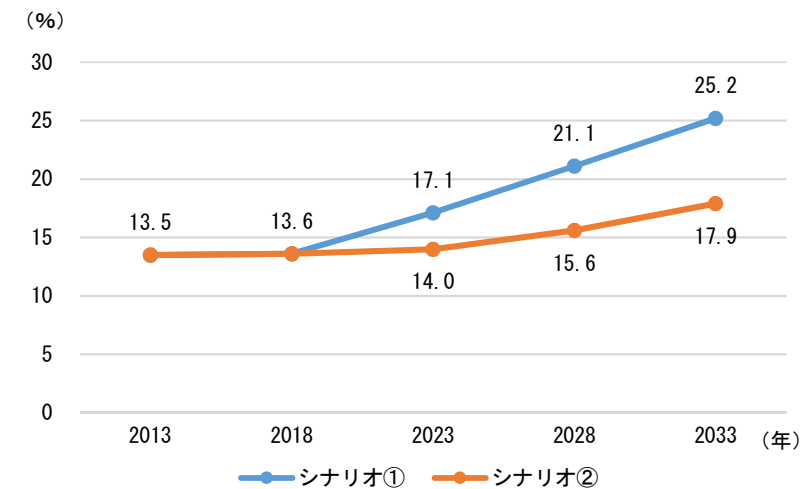
⑨低炭素・循環型社会への移行

- ・化石燃料による発電は縮小し、再生可能エネルギーが主力電源に近づいている。
- ・集中型のエネルギーシステムから、地域の特徴を踏まえた多様な供給力（再生可能エネルギー、コージェネレーション等）を組み合わせる分散型エネルギーシステムへ移行している。
- ・途上国における急速な都市化と人口増加により、世界的に廃棄物が増加する一方、資源の節約や循環利用への取組も広がっている。
- ・SDGsの理念が世界的に浸透し、SDGsを前提とした経済・社会・環境活動が広がっている。

⑩災害・犯罪リスクの増大

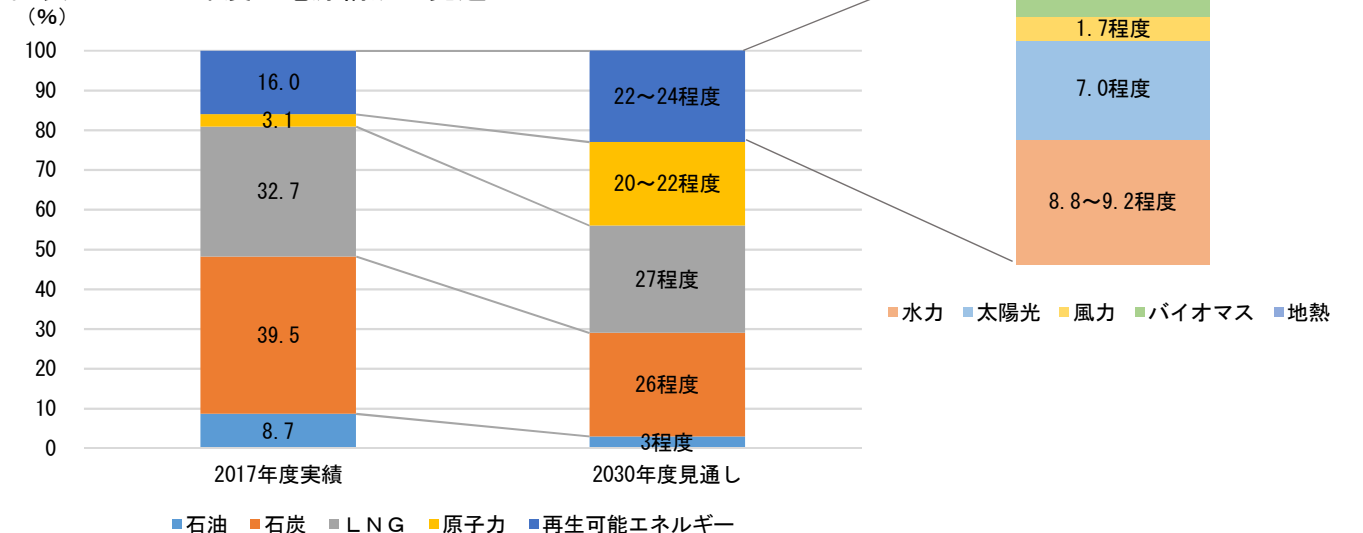
- ・依然として高い確率で南海トラフ地震が発生することが懸念されている（2019年1月時点で、今後30年以内に南海トラフ地震が発生する確率は70~80%と推定）。
- ・外国人や高齢者など、災害発生時に配慮を要する者がさらに増加している。
- ・地球温暖化など長期的な気候変動の影響による災害が広域化・激甚化している。
- ・増加する高齢者の単独世帯を狙った新たな犯罪のリスクが高まっている。
- ・グローバル化やICTの進展により、国際組織犯罪やサイバー犯罪が多様化・巧妙化している。

◆図表8 空き家率のシミュレーション結果（全国）



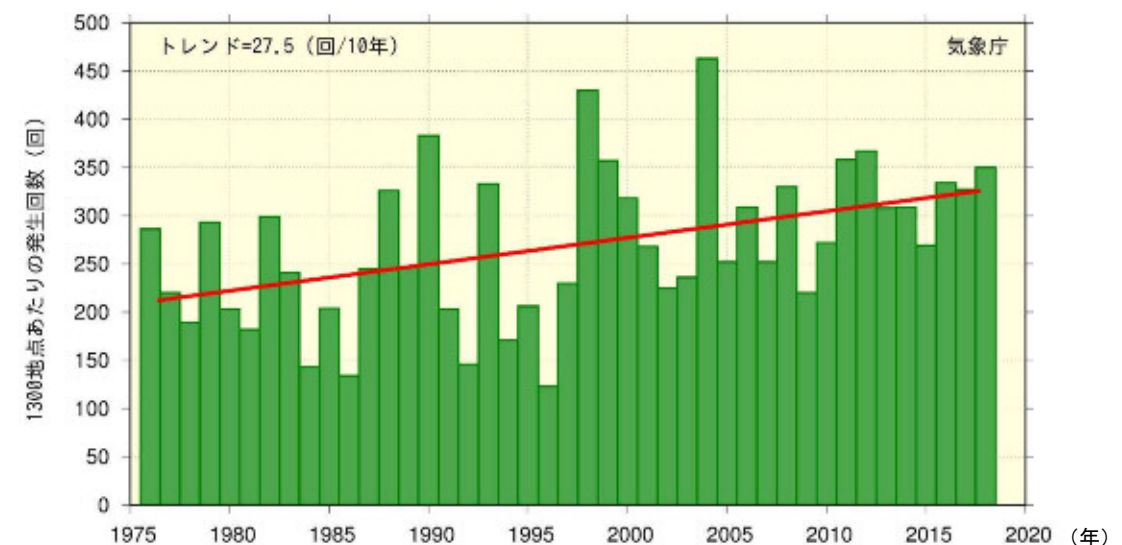
※シナリオ①：今後、2008~2012年度の新設住宅着工戸数に対する除却戸数の割合（除却率）（30.3%）の水準が続くシナリオ
シナリオ②：空き家特措法施行後（2015~2107年度）に除却が進んだと仮定した場合の除却率（82.7%）が今後も続くシナリオ
出典：(株)野村総合研究所「2030年の住宅市場と課題」（2019年6月）

◆図表9 2030年度の電源構成の見通し



出典：経済産業省「平成29年度(2017年度)エネルギー需給実績」、「長期エネルギー需給見通し」（2015年7月）

◆図表10 [アメダス] 1時間降水量50mm以上の年間発生回数（全国）



出典：気象庁Webページ

～愛知の将来の方向性について～

	現在	～2040年頃	将来の方向性
県民生活	強み <ul style="list-style-type: none"> ・社会増が自然減をカバーし、人口増加を維持 ・比較的高い合計特殊出生率 ・大学が充実し、高い地元志向 ・比較的高い3世代同居、近居、隣居率 ・安価でゆとりある居住環境 ・比較的最長い健康寿命 ・特定地域に保健医療福祉の専門機関が集積 	機会 <ul style="list-style-type: none"> ・比較的若い人口構造を維持 ・職住近接など共働きが可能な環境を維持 ・ICTなどにより多様な働き方が可能 ・リニアにより遠隔地への通勤が可能 ・効率的で快適な生活が可能になるAIが生活の様々な分野で社会実装 ・健康寿命が延伸 ・生活支援ロボットの普及 	<p>この地域に愛着と誇りを持ち、この地域で働き、出会い、子どもを産み育て、歳をとってからでも住み続けたいと考える人を増やしていく。</p> <p>国籍、性別、障害などにより生きづらさを感じることがなく、人生のどの時点でもやり直しができる、多様な生き方を県民が自由に選択できる社会を作っていく。</p> <p>人生100年時代を迎えるなか、地域でお互いが支え合い、意欲と能力に応じ、生涯にわたって活躍出来る社会をつくっていく。</p>
	弱み <ul style="list-style-type: none"> ・東京圏への若年層流出 ・女性の活躍度合の低さ ・低い男性の育休取得率 ・低い障害者雇用率 ・大都市圏特有のボランティア活動の行動率の低さ ・日本語教育が必要な外国籍の児童生徒数が全国で最も多い 	脅威 <ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者が増加する一方、前期高齢者は2030年に向けて減少し、担い手不足が深刻化 ・特定の年齢層が極度に偏在する地域が発生 ・可処分所得の伸び悩み ・正規・非正規の雇用形態の違いなどにより世帯間収入格差が拡大 ・就職氷河期世代が高齢者に 	<p>これまでのモノづくりの集積を生かし、進化する製造業においても優位な地位を築き、AI、ロボット等の第4次産業革命の変革の波に乗り、世界有数の「国際イノベーション都市」として日本経済をけん引していく。</p> <p>国内外の高度人材・グローバル人材が活発に交流し、世界のなかで成長する国や地域との連携・協力関係を築いていく。</p> <p>農林水産業の担い手を確保しつつ、大規模化・スマート化を進め、生産性を高めていく。</p>
産業経済	強み <ul style="list-style-type: none"> ・高い経済成長率を持つ国や地域との連携 ・41年連続して製造品出荷額等が日本一 ・マザー工場など高度な研究・開発機能が集積 ・日本一の輸出額・貿易黒字額 ・全国第2位の外国人労働者数 ・自動運転、介護ロボットなど近未来技術の実証実験が活発 ・若い平均年齢、他県と比べて多い生産年齢人口 ・全国第7位で中部最大の農業産出額 	機会 <ul style="list-style-type: none"> ・連携・協力関係を築いた国や地域が大きく成長 ・アジアに富裕層を含む巨大マーケットが形成 ・第4次産業革命による高度なモノづくり技術の利用拡大（自動運転、介護ロボットの普及） ・外国人材の受入ノウハウが蓄積 ・大規模農家の拡大、スマート農業の普及 ・シェアリングエコノミーの拡大 ・高速・大容量のデータ通信技術の進展 ・世界の食料需要の増加 	<p>国内外の高度人材・グローバル人材が活発に交流し、世界のなかで成長する国や地域との連携・協力関係を築いていく。</p> <p>農林水産業の担い手を確保しつつ、大規模化・スマート化を進め、生産性を高めていく。</p>
	弱み <ul style="list-style-type: none"> ・輸出品目（自動車関連）と輸出国（アメリカ）の偏り ・進む自動車の海外現地生産 ・情報系大学の少なさ、ベンチャー不毛の地 ・大都市圏としてのサービス業の生産性の低さ ・一般労働者の長時間労働 ・農業就業人口の減少と高齢化、耕作放棄地の増加 	脅威 <ul style="list-style-type: none"> ・製造業の中心がアジアへシフト（生産性の低い製造業は海外へ移転） ・電動化等による自動車関連下請企業の受注減 ・AI、ロボットの代替による技術的失業 ・アジアの成長地域への高度人材の流出 ・途上国との賃金ギャップが減少し、外国人の受入れも困難に ・農産物の輸入拡大 	

